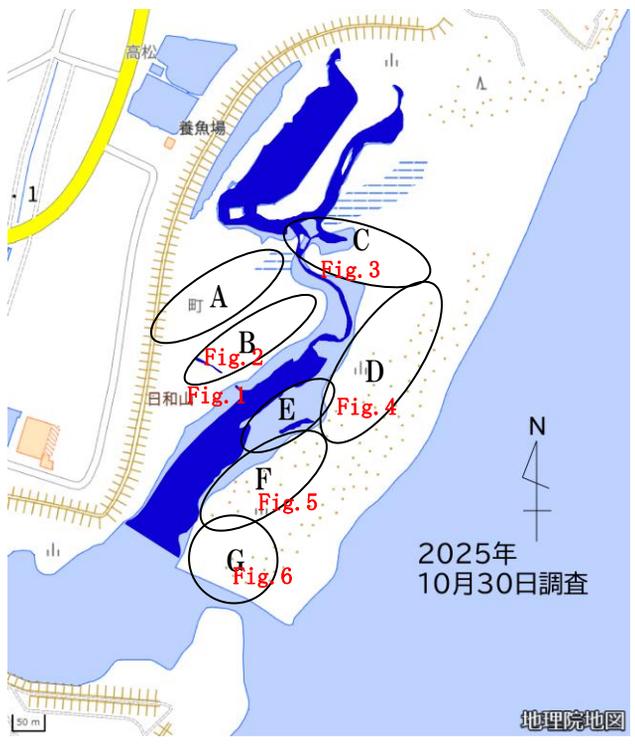


蒲生干潟の植物④9

2025年10月19日



↑ Fig.1 定点観測 ↓ Fig.2 枯れたハママツナ

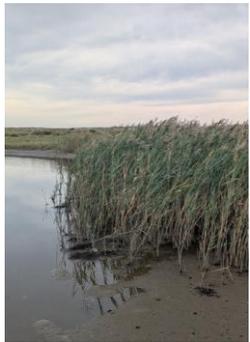


Fig.3 エリアC 潟湖沿い東側のヨシ



Fig.4 エリアD 南側若いクロマツ



Fig.5 エリアF 一斉に開花しているウンラン



Fig.6 エリアG オオマツヨイグサの株と花

調査日 2025年10月19日 (金) 9:45~11:15

Fig. 1は定点観測の様子。この日は水が大きく引いていて潟湖と七北田川が分断されている状態であったため、通常よりも陸上部が広がっていた。Fig. 2は枯れたハママツナの範囲である。潟湖東側に沿って生えているヨシの群落 (Fig. 3)。勢いが増し広がってきている印象を受ける。今後、現在のヨシの分布の様子を改めて調査し、昨年度の状態と比較していきたい。エリアDの南側には高さ40cmほどの若いクロマツが生えている (Fig. 4)。レポートに掲載はしていないが4月時点では20cmほどの大きさであった。潟湖東側のクロマツはどの個体も順調に成長し、大きくなっている。エリアFでは先月まではほとんど目立たなかったウンランが広範囲で一斉に開花していた (Fig. 5)。エリアGではコマツヨイグサやメマツヨイグサなどより明らかに大型であるオオマツヨイグサと思われる個体が複数か所で見られた。これまでの本レポートでは報告されておらず、また2022年から2023年にかけて仙台市が実施した蒲生干潟の植物相の調査においてもオオマツヨイグサは報告されていないことから近年新たに侵入してきたと考えられる。今後も注視していきたい。
(伊藤勝彦)